****

教材研究ノート№2-A-20

≪学習問題≫

でんきゅうは　いくつあるでしょうか。

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・単元「10より大きい数」「100までの数」で，「1000までの数」で十進位取り記数法での数の表し方を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10を単位として，数の相対的な大きさを表す学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・100を単位として，数を表す経験は少ない。

○ゆさぶりに対応する経験

・10ずつ数えたり，かけ算で表したりする学習をしている。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し:こんなに多くの数を一つ一つ数えることは，時間がかかる。10ずつまとめても分からなくなる。

→100のまとまりを数えていけば速く数えられそう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:100のまとまりをつくって，100のまとまりにならないものを10のまとまりにしてかぞえてみよう。

③個人追究:100このまとまりの数を数え，余ったものは10このまとまりにして数え，数え方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「1000このまとまり，100このまとまり，10このまとまりはそれぞれいくつできるのかな？」

→「1000こが3つ，100こが2つ，10こが5つとバラが6つできる。」

④共同追究後半（思考を深める）

「1000は100のかたまり10こ，1000が3こあると100のかたまりがいくつあることになるだろうか？」

→「10＋10＋10＝30，10×3＝30，30こあるということだ。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・1000が3つあると，三千とよむ。

・ぜんぶで三千二百五十六ある。

・100のかたまりをつくってかぞえると，はやく正確にかぞえることができる。

⑥定着･活用問題

・二千五百四十二を，1000と100と10とばらにわけてならべてみよう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・およそどのくらいありそうかを予想させることで,何個ずつのかたまりをつくって数えたらよいかの見通しを持たせたい。

・単元「1000までの数」までで学習した，10や100をまとまりにした数え方や，十進位取り記数法による表し方が子どもの追究に表れる。何を単位としてそのいくつ分にしたかを共同追究で取り上げ，かたまりを10集めると上の位になることを確認したい。

【板書計画】